

サトウキビ新品種「NiF3」

吉田博哉・最上邦章・永富成紀・坂元 茂
 板倉 登・福永公平・前田弘敬・細田 久 (九州農業試験場)

YOSHIDA, H., K. MOGAMI, S. NAGATOMI, S. SAKAMOTO, N. ITAKURA, K. FUKUNAGA, H. MAEDA and H. HOSODA :
 The New Sugarcane Cultivar "NiF3"

1. 育成経過

NiF3はCP52-68を母、CP57-621を父とする雑種集団から、栄養系選抜法によって育成された。

交配は1970年、台湾糖業研究所で行なわれた。

1971年、九州農試温暖地作物研究室は同雑種種子を導入し、温室内に播種して、実生苗660個体を養成した。同年夏季、これを本圃に定植して個体選抜を行ない61個体を選抜した。1971年以降は栄養系に展開して、1974年まで、3回にわたって、多収、高糖、早熟、耐病性を主目標として栄養系による選抜をくりかえし、KF71-130を選出した。KF71-130は、1975年に特性検定試験に、1976年に系統適応性検定試験に、1977年に鹿児島県奨励品種決定試験に供試された。その結果、その成績が優れたので、1982年3月、鹿児島県の奨励品種として採用され、同年6月さとうきび農林3号として登録され、NiF3と命名された。

2. 特性

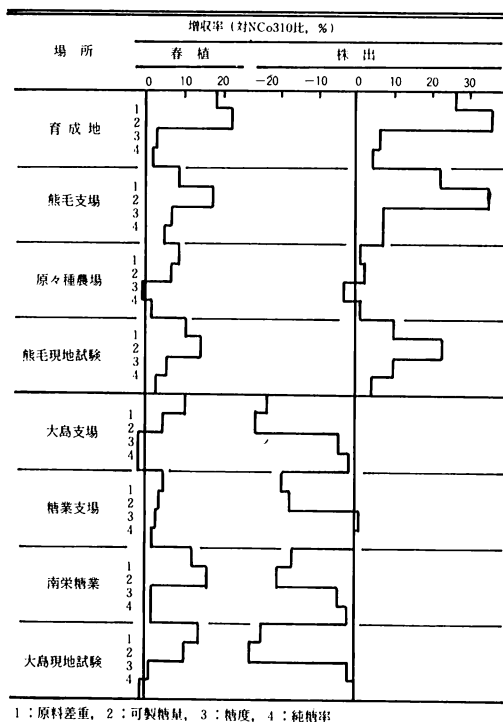
NiF3は長太茎、少けつ性の多収、高糖、早熟性品種である。茎数はNCo310の約65%、1茎重は180%で、茎長は約30cm、茎径は約6mmそれぞれNCo310を上まわる。

新植時の発芽、株出し時の萌芽とも良好で、茎の伸長、糖分の上昇はNCo310よりも明らかに早い。倒伏し難く、茎揃いは良好で、脱葉が容易であるため省力的であり、機械による収穫にもよく適応する。台風による損傷はNCo310よりも幾分多い。葉焼病、梢頭腐敗病には罹病性、サビ病には抵抗性、モザイク病には不完全ながら抵抗性である。収量は育成地の春植では対NCo310比118%、株出しでは126%、また可製糖量はそれぞれ121%、136%で、茎重、糖分の両面で、NCo310を上まわっている。同様の成績は鹿児島農試熊毛支場、熊毛地区現地試験でも得られ、NiF3は熊毛地区ではNCo310よりも優れた性能を発揮すると判定できる。しかし、大島地区では、第1図に示すように、NiF3は春植ではNCo310を若干上まわるが、株出しでは明らかに劣る。すなわち、鹿児島農試徳之島糖支場

では、収量は春植で対NCo310比104%、株出しでは81%、また可製糖量ではそれぞれ103%、83%を示し、茎重、糖分ともNCo310を上まわるとはみなし難い。この傾向は現地試験を含む全試験で認められ、NiF3は大島地区では十分な性能を発揮し難い品種であると判定される。

3. 適地

NiF3は鹿児島県内でも熊毛(種子島)地区に適応する品種である。耐病性、耐風性がやや不十分な点を考慮すると同地区内でも中央及び東海岸地帯によく適応する。



第1図 NiF3の収量性

第1表 NiF3の主要特性

| 品 種 | 形態的特性 ¹⁾ | | | 生態的特性 | | 省力性 | | | 障害抵抗性 | | | | | | |
|--------|---------------------|------------|-------------|------------|---------|-----------|-----------------|----------|---------|---------|-----------|---------|---------|-----------|---|
| | 茎長 (cm) | 茎径 (cm) | 茎数 (本/a) | 1茎重 (g) | 発芽 性 | 萌芽性 伸長 | 茎の糖 分の上 昇 | 耐倒伏 性 | 脱葉 性 | 耐風 性 | モザイ ク病 | 葉焼 病 | サビ 病 | 梢頭腐 敗病 | |
| NiF3 | 222 | 2.7 | 631 | 1,288 | 良 | 良 | 極早 | 早 | 強 | 易 | やや強 | やや強 | 弱 | 強 | 弱 |
| NCo310 | 191 | 2.1 | 1,015 | 683 | 良 | 良 | やや早 | やや早 | やや強 | 難 | 強 | 弱 | 中 | 強 | 強 |
| Ni1 | 197 | 2.2 | 817 | 756 | 良 | 極良 | 早 | 極早 | 強 | 易 | 中 | やや強 | 弱 | 弱 | 強 |

注 1) 育成地における1974~1981年の春植における平均値